2011年度　内分泌・代謝系Ⅱ　本試験

**Ⅰ. 守屋（1は昨年と同じ）**

　1)　72歳女性。口渇、多飲を主訴に来院。4年前から高血糖を指摘され、

母親は糖尿病を羅患していた。血圧146/82 mmHg

①他にどんな症状をきたしうるか

②今日できる検査を挙げ、考えられる疾患ではどのような結果が得られるか。

③この患者が糖尿病であるとすれば、その診断は

　2)　肥満と肥満症の違いについて書きなさい

**Ⅱ. 守屋**

　1) 51歳男性。二ヶ月前から突然、尿回数及び尿量の増加、著しい口渇感を認め来院し

た。血圧126/86、著名な口腔粘膜と皮膚の乾燥を認める。上記より考えられる疾患の

　　　①疾患概念

②上記以外の臨床症状

③検査所見（血液・尿所見

④治療

　　　について述べよ

2)　痛風発作時の治療について

　　①局所療法

　　②薬物療法

　　の2つに分けて述べよ

**Ⅲ. 七里（授業中、できるだけどんどん書きなさいと指示）**  
1) クッシング症候群を分類し、臨床症状、診断を記せ  
2) アジソン病の概念、診断、治療を記せ

**Ⅳ. 岩村？**

原発性アルドステロン症について、正しいものに○を、誤りには×をつけよ

（　　）本邦での高血圧患者における発症頻度は極めて低い

（　　）高K血症をきたす事が多い

（　　）血漿アルドステロン濃度／血漿レニン濃度活性値が高値を示す時に本症を疑う

（　　）副腎腺腫は悪性の場合が多いため全例副腎静脈サンプリングを行なうべきである

褐色細胞腫について、正しいものに○を、誤りには×をつけよ

（　　）多発性内分泌腫瘍症の部分症として発症する事がある

（　　）高齢者高血圧の10％に近い発症頻度を示した統計もあるため10％disease

と呼ばれる

（　　）我が国ではCT撮影の際、クリーゼをきたす懸念から造影剤は原則禁忌とされてい

　　　　る

**Ⅴ. 高田？**

Basedow病の薬物療法について述べよ。？

**Ⅵ. 平井**

64歳男性、3～4年前の健診で甲状腺のびまん性腫大を指摘される。精査はしていない。

153cm、66kg、体温35.5℃　甲状腺に圧痛はない、むくみがある

検査値：T3,T4低値、TSH高値　血圧正常、抗T3,T4抗体陰性

1) この疾患の確定に必要な検査はどれか

a)抗サイログロブリン抗体

b)CRP測定

c)赤血球沈降速度測定

d)血中コルチゾール測定

e)尿中コルチゾール測定

　2) この疾患に適切な治療はどれか

a)サイロキシン投与

b)ステロイド投与

c)MMI(チアマゾール)投与

d)TPU(プロピルチオウラシル)投与

e)コルチゾール投与

**Ⅶ. 松原**

1) 次の空欄を埋め、A、B、Cのいずれかについて空欄を埋めて、詳しく説明しなさい

A　糖尿病性（　　）は失明の原因になりうる

B　糖尿病性腎症の治療は血糖コントロールと（　　）である

C　糖尿病性神経症の検査には（　　）反射が有効

　2) 経口血糖降下薬について適応、禁忌、副作用について述べよ

3)次のうちどちらかを選んで知ることを述べよ

MEN1

MEN2

**Ⅷ．鎌田（過去問通り）**

原発性副甲状腺機能亢進症について、以下の問いに答えよ。

1) 病理組織的には癌が最も多い  
2) 症状には口渇・多飲・多尿・夜間尿が認められる。

3) 臨床所見として、血液検査で高クロール性アシドーシスを示す。   
4) 診断には131I－MIBGシンチグラムが有用である。  
5)治療では外科的腫瘍摘出が第一選択である。

**Ⅸ.市川**

副甲状腺機能低下症について、PTHの作用低下について、  
病態生理から2つに分類し、簡潔に説明しなさい。

**Ⅹ.　岡（2007年の過去問通り）**

若い男性。最近友人に顔が変わったと指摘され、普段履いていた靴も入らなくなった。

MRI所見を示す。

この疾患でみられないものはどれか

1) 糖尿  
2) 舌の萎縮

3) 下顎の突出  
4) heel padの肥厚  
5) 発汗